

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

室蘭工業大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	4
------	---

《本文》	5
------	---

《判定結果一覧表》	27
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

室蘭工業大学の基本理念は、「創造的な科学技術で夢をかたちに」である。本学は、この基本理念に基づき、夢を抱く多様な学生を受入れ、幅広い教養教育と技術者倫理、深い専門性を備えた、国際的に通用する創造性豊かな理工系人材の育成や、本学の強み・特性を活かした学術研究・知の創造を以って、社会・地域の発展に貢献する。

本学は、自らの明確な信念や考えのもと、何事にも能動的に振舞うことのできる「自走力」を備え、国際的にも通用する理工系人材の育成を第一の使命とする。そのため、本学は、複雑に変化する社会の要請に機敏に対応できる組織の構築や柔軟な教員組織の運営を行うなど、自立性を持った不断の改善、充実を図った上で、学士課程と大学院博士前期課程を通じた系統的な教育や大学院での実践的教育を発展させる。

学士課程では、大学院博士前期課程の基礎をなす専門知識、課題発見と解決能力、倫理性と地域問題に対する理解力を併せ持つ創造的な科学技術者を育成する。大学院博士前期課程では、専門知識の深化と課題解決能力の涵養を重点とした教育を行い、世界的視野を有する高度な科学技術者を育成する。大学院博士後期課程においては、多様な社会ニーズを踏まえ産業界等でも活躍できる「イノベーション博士人材」育成の役割を果たす。

本学の第二の使命は、科学技術の知の創造とこれに関連する学術研究の推進である。航空宇宙機システム及び環境（エネルギー・材料・資源活用）に関する分野をはじめとして、本学の特色、強みを活かしたものづくり産業や工学の諸分野の学術研究を推進し、社会の要請に応え、その成果を世界に発信する知の創造の拠点形成を形成する。さらに本学教員の専門に応じた国内外の大学等の研究者との幅広い連携・協働により、国際水準の研究成果を生み出していく。

本学は、地域共生を目指し、地域が掲げる産業をはじめとした政策実現の一助として、自治体や企業等との多分野にわたる教育研究に関する産学官金の連携を進展させ、地域が必要とする人材の育成や輩出を行う。さらに、社会人教育や小・中・高校生の啓発的・実践的理科教育にも貢献することにより、研究・教育の両面から北海道地域の中核的拠点として、地域の活性化を促進し、その発展に寄与することを第三の使命とする。

室蘭工業大学は、1887年に札幌農学校に設置された工学科をその前身とする北海道帝国大学附属土木専門部と、1939年に設置された室蘭高等工業学校を前身とする室蘭工業専門学校を統合して、1949年に新制の工業系国立単科大学として設置されており、本年（2022年）で札幌農学校工学科から135年、室蘭高等工業学校から83年を迎える伝統ある大学であり、これまで、多くの卒業・修了生を輩出してきており、社会で活躍している。

[個性の伸長に向けた取組（★）]

○学士課程の改組

産業界の変容と社会の要請に応え、多様で横断的な分野にまたがった課題を解決する人材を育成すべく、大学創設以来初めてとなる学部自体の改組再編を行い、2019年4月から新たに理工学

部を設置した。(関連する中期計画 1-1-1-2、1-1-2-1)

○新たな6年一貫教育プログラムの実施

国際的視野を有し地域創生を担える高度専門技術者を育成することを目的として、学士課程と大学院博士前期課程を接続した「6年一貫教育プログラム」を構築、実施した。6年一貫教育プログラムは、学外・異分野との活動経験を大幅に充実させた実践的なプログラムにしている。(関連する中期計画 1-1-2-1)

○重点研究分野における国際研究拠点の形成

希土類(レアアース)研究で世界的に活躍している研究機関等と学術交流協定を締結し、積極的な研究者・学生交流を実施するなど、希土類研究の世界的ネットワーク形成を推進した。(関連する中期計画 2-1-1-1)

○新たな重点分野研究プロジェクトの育成

成果を出しつつある研究グループの中から新たな重点研究分野候補4件(「北海道天然物質を活用した地域創生」、「持続可能な都市と交通システム」、「地域協働サービスへのAI技術展開」、「AI耐災害システム」)を選定し、研究費や人的リソースの重点配分を行い新重点分野の育成を進めた。さらに、2年間の研究プロジェクトの成果に基づき、「AI耐災害システム」を新たな重点研究プロジェクトに選定した。(関連する中期計画 2-1-1-2)

○地域に貢献する長期ビジョンの策定

40年後の北海道の姿を本学の教員自らが描き、そこからバックキャストして本学が科学技術でどのように地域に貢献していくかをまとめた、長期的な視野にたった北海道の将来像とそれを実現するための研究戦略である「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を2019年6月に策定した。策定にあたっては、地域の課題を共有しつつ、産学官金が協力して、北海道を「世界水準の価値創造空間」にするためのビジョンを創りあげた。(関連する中期計画 2-1-1-2、2-2-2-1)

○新たな研究体制の試行

社会連携統括本部の中にクリエイティブコラボレーションセンターを設置し、AI技術と従来型の専門をカップリングする形で分野複合的な研究を推進し、地域課題解決を目指した。さらに、これまでの本学研究センター組織より高い機動性・自由度を有し、変化の激しい社会状況や地域のニーズに応じて、メンバー・研究内容・研究体制を柔軟にバージョンアップできる研究組織「ラボ」を本センター内に設置した。(関連する中期計画 2-1-1-2、2-2-2-1)

○地域志向教育プログラムの構築、地域共育プラットフォームの構築

地域産業を自ら生み出す人材など、地域を担う人材を育成することを目的として、総合的な地域志向教育プログラムである「地方創生推進教育プログラム」を構築し、併せて、大学と企業・経済界・自治体協働による地域人材育成の仕組み「地域共育プラットフォーム」を構築し、産学官

金による地域人材育成体制を整えた。(関連する中期計画 3-1-2-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

○理工系人材の育成

全学的かつ組織的な体制の下で、社会ニーズを捉えて高度専門科学技術者及び地域創生を担える理工系人材を育成する。(関連する中期計画 1-1-2-1、3-1-2-1)

○地域課題に対応する研究の推進

本学が有する独自の研究シーズを活かしたプロジェクトの実施や産官学の連携体制強化を通して、地域課題の解決に向けた活動を推進することにより、地域の活性化、新産業の創出や雇用拡大、行政の支援等に取り組む。(関連する中期計画 2-2-2-1、3-1-1-3)

○国内最高水準の研究拠点形成

エネルギー、材料、資源活用などの強み・特色のある環境分野をさらに伸長するグリーン・イノベーション分野の形成に取り組む。(関連する中期計画 2-1-1-1、2-2-1-1、2-2-1-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、室蘭工業大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 達成している	【2】 十分に達成しているとはいえない	【1】 達成していない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している		1	4		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			4		
3 学生への支援に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		1	1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			3		
II 研究に関する目標	【4】 上回る成果が得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		3			
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している		1	2		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 達成している					
	なし		1	2		
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）5項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学士課程では、専門知識や倫理観等を主体的に身につけ、課題解決にあたることができる高度な技術者を育成する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「能動的学習の推進」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 能動的学習の推進 能動的学習に向けたさまざまな施策を実施し、アクティブ・ラーニング科目数が平成29年度の200科目に比べて、令和元年度には440科目と増加しているほか、学生の意識に		

	<p>も変化が現れ、全ての学年において1日あたりの自己学習時間数が増加している。(中期計画 1-1-1-1)</p> <p>○ 情報教育のカリキュラムの実現</p> <p>理工学部への改組を実施し、これまで実践してきた専門教育・地域連携教育に加え、本質を科学(理学)的視点で理解するための自然科学・理学教育を充実させている。さらに、工業大学ならではの数理・データサイエンス教育を全学生に必修化している。こうして全ての学生がこれからの社会で必要とされる情報教育を学ぶカリキュラムを実現している。</p> <p>(中期計画 1-1-1-2)</p> <p>○ 情報教育の教材開発</p> <p>教育推進支援センターの教材開発・分析支援部門が中心になって、新学部の理工学部共通科目、各学科共通科目の情報科目用の教材を開発している。新学部の教育の特長の一つに、全ての専門分野の学生を対象にした情報教育があり、そのために、Pythonを使ったプログラミングについて、Eラーニング教材と連携した教科書や情報学について俯瞰する教科書を作成している。これらの教科書を室蘭工業大学の情報教育の核と位置づけている。(中期計画 1-1-1-2)</p>	
<p>小項目 1-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>社会から要請されている、産業界を支え国際的にも活躍できる有能な理工系人材を、学士課程と大学院博士課程を通じて系統的に育成する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 一貫教育プログラムの構築</p> <p>学士課程と博士前期課程を柔軟なコースワークで接続した6年一貫教育プログラム/学士修士一貫教育プログラムを構築し、学士課程における卒業研究の早期実施、大学院授業科目の先取り履修、先端企業との共同研究を体験する「相棒型PBL」を設定するなど、学外など異分野との活動経験を充実させた実践的なプログラムを展開している。第1期生(平成30年度修了)及び第2期生(令和元年度修了)のプログラム修了者18名のうち、11名が学会賞等を受賞するなど、高い教育効果が現れている。(中期計画 1-1-2-1)</p>	

小項目 1-1-3	判定		判断理由		
大学院博士前期課程では、高い専門性に加えて、自身の専門領域を超えた分野の幅広い知識や俯瞰力を身につけ、それらを問題解決に活かすことができる高度な科学技術者を育成する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。		
			≪特記事項≫		
			(優れた点) ○ 専門性と俯瞰力を身に付けるカリキュラム 高い専門性と俯瞰力を身に付けるカリキュラムを構築し、これらの取組の成果として、大学院工学研究科博士前期課程学生の学会賞受賞者数が、第2期中期目標期間の17.5件/年に比べ、第3期中期目標期間は32.0件/年に増加している。(中期計画1-1-3-1)		
小項目 1-1-4	判定		判断理由		
大学院博士後期課程では、産業界等でも広く活躍できる能力を身につけた「イノベーション博士人材」を育成する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。		
			≪特記事項≫		
			(特色ある点) ○ 博士後期課程学生と企業との交流 大学院博士後期課程学生と学外企業等との交流を促進させるための「室蘭工業大学大学院工学研究科博士後期課程出合いの場(ドクコン)」を平成28年度から継続して開催し、本取組の結果、大学院工学研究科博士後期課程の民間企業への就職者数は、第2期中期目標期間の3.67名/年に比べ、第3期中期目標期間においては3.75名/年に増加している。(中期計画1-1-4-1)		

小項目 1-1-5	判定		判断理由
国際的に活躍できる能力を身につけた人材を育成する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
《特記事項》			
<p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アクティブ・ラーニングの推進 アクティブ・ラーニング推進部門を新たに設置し、大学院工学研究科博士前期課程において、プレゼンテーションやPBLの要素を含む科目数が、平成29年度時点21科目から令和元年度に39科目に増加している。(中期計画 1-1-5-2) ○ 新たな食の機能性指標の確立に向けた教育研究 世界的課題である「認知症の予防」に資する新たな食の機能性指標の確立に向けた教育研究のため、大学院博士後期課程に、脳の老化を防ぐ食の機能性指標の開発を通じた実践型教育プログラムを新設している。本プログラムは、生物や化学に加え、情報サイエンスに関する分野横断的で実践的な教育を地域の農食関連企業の協力のもとに実施し、健康に関わる国際機関、グローバルに展開する機能性食品業界等において活躍できる人材を育成することを目的としており、文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの採択を受けている。(中期計画 1-1-5-3) 			

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 4 項目のうち、4 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
学士課程及び大学院博士課程の各コースカリキュラムに係わる教育スタッフを確保するとともに、コース学生数について弾力的に運用する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度4月下旬から全ての授業を zoom や moodle を利用したオンライン形式により行い、緊急事態宣言解除後も、一定の健康観察期間を経て同年6月下旬から実験・実習等の一部の科目について面接授業に切り替えて実施している。後期授業からは面接授業を中心とし、3密を避けた講義室設定や、授業形態等によっては引き続きオンライン形式による授業を行うなどの取組を行っている。オンライン授業に伴う学生支援策として、ポケット wi-fi、iPad の貸出を行い、学内の空き教室や自宅における受講環境の整備・改善を行っている。また、zoom のブレイクアウトセッション機能を活用して、グループワークや学生同士のコミュニケーション機会を提供するなどの工夫を行っている。		

小項目 1-2-2	判定		判断理由
他大学との連携を図り、教育の多様化と高度化を進める。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 道内大学による教養教育連携授業 道内7国立大学による教養教育連携授業では、毎年度受講者数が伸長しており、令和元年度には他大学が提供する遠隔授業の履修者が延べ376名に達している。(中期計画1-2-2-1)</p> <p>● 道内大学との連携による大学院教育の高度化 北海道大学との間で連携組織「f3工学教育研究センター」を設立したほか、北海道大学と単位互換協定に基づく開講科目の相互提供を行っている。特に、研究開発プロジェクトに学生を参加させるプロジェクト(「f3プロジェクト」)は、システム工学の素養を持ち、航空機等の巨大システムやITシステムの構成要素としての情報端末等、複雑な工学システム全体を見渡しながら研究開発を牽引する工学リーダー人材を育成し、航空宇宙産業やIT産業などの次世代基幹産業の構築を支援するものである。令和2年度に36テーマであったものが、令和3年度には46テーマの開発プロジェクトが立ち上げられている。(中期計画1-2-2-2)</p>			
小項目 1-2-3	判定		判断理由
学生が能動的に学修しやすい環境を整備するとともに、学生の自己学修管理能力を育成する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 能動的学習のための環境の整備 学生が能動的に学修しやすい環境の整備、学生の自己学修管理能力の育成を目指し、教育推進支援センターにFD・AL部門を設置し、アクティブ・ラーニングを全学的に推進しているほか、それに対応した講義室やラウンジ等の整備、クリッ</p>			

	<p>カーやホワイトボードの整備を実施している。また、学務情報システムである CAMPUSSQUARE の学生ポートフォリオの機能を拡充・整備することにより、学生が自身の学習達成状況を可視化できるようにしたほか、オープンソース学修管理システムの積極活用を実施している。これらの取組の成果として、能動的学習に適した環境が整備され、第2期中期目標期間に比べ、全ての学年において自己学習時間が増加している。(中期計画 1-2-3-1、1-2-3-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>● 新たなプログラミング教育環境の実現</p> <p>プログラムを Web ブラウザ上で記述・実行できる統合開発環境 Jupyter Notebook を計算機環境として採用し、計算機との対話的なコンピューティングや学生のレベルや進み具合に応じて個別に最適化した演習を実現している。これにより、自宅からの利用も可能となっているほか、各学生の演習の進捗状況や操作等が実行ログとして可視化され、このログを解析することで、教材、教育方法の改善や学生の理解度向上につながっている。(中期計画 1-2-3-1)</p>		
<p>小項目 1-2-4</p>	<p>判定</p>		<p>判断理由</p>
<p>国際通用性のある技術者・人材を育成するために、教育の質保証を行うとともに、継続的にその質改善を図る体制を整備する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域人材の育成</p> <p>大学と企業・経済界・自治体共同による地域人材育成の仕組み「地域共育プラットフォーム」を平成 28 年度に構築し、平成 29 年度に産業界等地域の声を反映した新たな PBL 授業「北海道産業論」の設計・構築を行っている。(中期計画 1-2-4-3)</p>			

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
<p>学修に関する環境や指導体制を充実させ、学生の能動的な時間外学習を支援するとともに、全学的な就職支援体制を整備・維持する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「ポートフォリオを活用した指導の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ ポートフォリオを活用した指導の充実</p> <p>修学指導面談においては、電子ポートフォリオを活用し、学科・コースごとに成績や授業の出欠状況を確認しながら、きめ細かい対応を行うとともに、面談の記録をポートフォリオに登録している。このことにより、学科内のコース分属等によってチューター教員が変わった場合でも、面談記録を共有し、シームレスに対応できる環境を実現している。さらに、電子ポートフォリオに学生が自己学習時間 (目標・実績) を登録する機能、各コースに設定している学習目標ごとに GPA 分布を表示し、さらにその中で自分がどの位置にいるかが示される機能を実装し、修学指導に活用している。(中期計画 1-3-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ インターンシップの推進</p> <p>キャリア・サポート・センターが学科・専攻の担当者と連携してインターンシップの支援を実施した結果、インターンシップ参加者数が第2期中期目標期間の平均 143.7 名/年に</p>			

	比べ、第3期中期目標期間は181.8名／年に増加している。 (中期計画1-3-1-3)	
小項目1-3-2	判定	判断理由
学生の生活環境を改善するために、生活に関する相談・支援体制を充実させる。	【3】	中期目標を達成している
	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 	
	≪特記事項≫ 該当なし	

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目1-4)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目1-4-1	判定	判断理由
学士課程では、科学技術に夢を抱き、世界舞台を目指す、学習に意欲をもった多様な学生を受け入れる。	【3】	中期目標を達成している
	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 	
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 入学選抜方法の検証 平成29年度には、総合学習や課題研究等で発表の実績がある入学者の協力を経て、プレゼンテーションを含む模擬面接を通じて「思考力・判断力・表現力」や「主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度」について、どの程度評価ができるかを検証するための「試行テスト」を実施している。さらに、選抜方法等について、胆振・日高管内の高等学校長会等の意見を伺う機会を設けるなど丁寧な検証を進め、「課題研究プレゼンテーション」を採用している。(中期計画1-4-1-1)	

	<p>○ 入学志願者の高倍率</p> <p>東京に学外試験場を設置、動画配信サイトを活用した動画広告の導入やホームページに特設ページを設けるなどの志願者確保の取組を実施し、学士課程昼間コース前期日程では、入学志願者数が法人化以降最高の 4.8 倍の高倍率となっている。(中期計画 1-4-1-1)</p>		
小項目 1-4-2	<p style="text-align: center;">判定</p>		
<p>大学院博士前期課程では、課題解決のための基礎的素養を備えた学生を受け入れる。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>● 新型コロナウイルス感染症下の学士修士一貫教育プログラム</p> <p>コロナ禍の状況に鑑み、オンラインを活用した活動を積極的に行ったことにより、令和 2 年度には過去最大となる 19 名の応募があった。平成 28 年度のプログラム開始以降、最大の適用者数だった令和元年度の 40 名を超えて、令和 2、3 年度はともに 49 名となっている。</p>		
小項目 1-4-3	<p style="text-align: center;">判定</p>		
<p>大学院博士後期課程では、工学の先進的課題の発見とその解決に強い意欲を備えた学生を受け入れる。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>● 学生募集活動の取組</p> <p>平成 29 年度から大学院博士後期課程の学生募集パンフレット「大学院ドクターコースへの道」を発行し、ロールモデルを提示する活動を行った結果、平成 30 年度から学内進学者の数が増加している。(平成 28 年度 7 名、平成 29 年度 6 名、平成 30 年度 11 名、令和元年度 12 名、令和 2 年度 10 名、令和 3 年度 12 名)(中期計画 1-4-3-2)</p>		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
ものづくりとしての高度で先端的な加工技術に関わる重点分野の独創的・先進的研究を設定し戦略的に推進するとともに、新しい重点分野の創出・育成を進める。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「重点研究分野におけるプレゼンスの向上」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<< 特記事項 >> （優れた点） ○ レアアース研究の推進 希土類（レアアース）研究で世界的に活躍している国外研究機関との積極的な研究者・学生交流を実施するなど、希土類研究の世界的ネットワークを形成している。また、希土類に関する国際ワークショップ Muroran-IT Rare Earth Workshop を平成 28 年から毎年開催しており、国内を始め、		

	<p>海外の主要な希土類研究機関からの参加を得ている。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ 重点研究分野におけるプレゼンスの向上</p> <p>新たな重点研究分野に選定された研究グループの研究者が「科学技術への顕著な貢献 2018 (ナイスステップな研究者)」に選ばれている。また、令和元年のクラリベイト・アナリティクスによる高被引用論文著者 (Highly Cited Researchers) 2019 年版において、後続の研究に大きな影響を与える科学者として、コンピュータ科学分野で日本から選出された 3 名のうち 2 名が同研究グループから輩出されている。さらに、「THE 世界大学ランキング」へのランクイン、『大学ランキング』(朝日新聞出版) の分野別論文引用度指数において、「コンピュータ科学」分野で 1 位にランクされる原動力ともなっている。(中期計画 2-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 重点研究分野の推進</p> <p>重点研究分野に係る論文数及び被引用数、外部資金獲得額について、第 2 期中期目標期間の平均から 20%以上の増加を達成し、国際研究拠点に向けた外国人 DC (日本学術振興会の特別研究員) 数、外国人ポスト数、外国人研究者数についてもいずれも増加している。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ 北海道 MONO づくりビジョン 2060 の策定</p> <p>長期的な視野に立った北海道の将来像とそれを実現するための研究戦略である「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を令和元年に策定している。策定にあたっては、北海道内の自治体・経済界・学界等の有識者から構成される賢人会議を組織し、地域の課題を共有しつつ、北海道を「世界水準の価値創造空間」にするためのビジョンを創りあげている。(中期計画 2-1-1-2)</p>
--	---

小項目 2-1-2	判定		判断理由
<p>教員組織である「研究ユニット」で行う基盤研究を業績評価によって支援するとともに、学内公募によって将来性が見込める特長的なプロジェクト研究に対してもその計画・実績に応じて支援する。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「英語論文発表の支援」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語論文発表の支援 <p>ユニット評価においては、評価に基づく研究費の傾斜配分を実現したことに加え、英語論文を高く評価するなど評価基準をあらかじめ明示することで、各ユニットの次年度に向けた改善サイクルが機能するよう工夫している。その結果、英語論文総数が第2期中期目標期間の154編/年に比べて、第3期中期目標期間は179編/年と伸長している。(中期計画2-1-2-1)</p> ○ 研究活動の活性化 <p>科学研究費採択、特色ある研究の育成、共同研究の推進による研究活動の活性化のため、2種類の研究プロジェクトの学内公募を行っており、その結果、平成28年度から令和元年度に採択されたプロジェクト52件のうち20件が外部資金の獲得に繋がり、本支援による科学研究費及び共同研究等の獲得件数は33件、獲得金額は123,835千円となっている。さらに、科学研究費申請の添削支援事業をあわせて実施し、若手教員の科学研究費新規採択額が60,840千円となり、科学研究費採択率についても、第2期中期目標期間の43%から第3期は63%となっている。(中期計画2-1-2-2)</p> 			

小項目 2-1-3	判定		判断理由
<p>学術研究成果の論文発表、研究成果に基づく外部資金の獲得及び特許等の取得を積極的に進め、それらの研究水準及び成果を評価・検証して、質の高い研究を推進し、それらを公表する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「研究の質のさらなる向上」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究の質のさらなる向上 教員評価及び研究ユニット評価を毎年実施することによって、教員の研究力と研究の質が向上し、第2期中期目標期間に比べて外部資金額が増加しているほか、FWCI (Field-Weighted Citation Impact)、Top10%論文の割合が向上している。第3期中期目標期間におけるFWCIは、世界平均値1を常に超えている。さらに、教員の多面的評価システム (ASTA) の評価項目について、令和2年に外部資金の獲得額や研究業績の質に係る評価項目の見直しなど、継続的に改善している。 その結果、第2期中期目標期間と比べて、4年目終了時の外部資金獲得額が15.7%増であったのが、中期目標期間終了時には32.8%に向上している。同じく、国際共著論文割合が41.1%増から45.9%増、Quartile50%ジャーナル論文割合が17.3%増から22.8%増となっており、4年目終了時点から研究の質がさらに向上している。(中期計画 2-1-3-1、2-1-3-2) 			

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
<p>強み、特長を踏まえた研究活動を推進するために弾力的な人材配置を行うとともに、研究資源を機動的に有効活用できる仕組みを強化して研究推進体制を充実させる。</p>	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若手研究者による研究成果 新たな重点研究分野候補プロジェクトに卓越研究員等を活用して若手研究者を重点配置したこともあって、AI 技術を活用した「耐災害マルチドローン緊急通信ネットワーク」研究が進み、論文を軸に研究成果が出ている。この研究成果が認められ、令和元年度に北海道科学技術奨励賞を受賞している。(中期計画 2-2-1-1) <p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若手研究者の積極的採用 文部科学省が平成 28 年度より開始した卓越研究員事業を活用して若手研究者を積極的に採用し、重点分野研究を担う研究センターやラボラトリーに 3 名 (平成 28 年度: 1 名、平成 30 年度: 1 名、令和元年度: 1 名) の若手研究者 (うち 2 名は外国人研究者) を配置している。(中期計画 2-2-1-1、2-2-1-2) ○ 共同利用機器のコスト分析 研究基盤設備のライフサイクルと適切な更新・廃棄を実施する際の判断の一つの材料として、大学改革支援・学位授与機構との共同プロジェクト事業をきっかけに共同利用機器のコスト分析を実施している。このことにより、機器の利用や業績あたりのコストが可視化され、今後予定している共同利用機器・設備群の再編、学内外の共同利用の促進と集中管理による経費抑制へ資する取組となっている。(中期計画 2-2-1-3) 		

小項目 2-2-2	判定		判断理由		
<p>国内外の共同研究、受託研究等を一層推進するため、研究支援体制を強化する。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(特色ある点)</p> <p>○ 共同・受託研究の増加 研究支援体制の強化により、共同研究・受託研究の獲得額、件数、第2期中期目標期間の平均 105,449 千円/年、77 件/年に比べ、第3期中期目標期間は 106,395 千円/年、平均 97.5 件/年に増加している。(中期計画 2-2-2-1、2-2-2-2)</p> <p>○ 国際共同研究の伸長 海外との交流の活性化により、国際共同研究件数、国際共著論文数ともに、第2期中期目標期間の平均 17 件/年、36 編/年に比べて、第3期中期目標期間は 30.3 件/年、58 編/年と伸長している。(中期計画 2-2-2-3)</p>		
小項目 2-2-3	判定		判断理由		
<p>研究活動の評価システムを充実し、研究の質を向上させる。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p> <p>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教員評価における評価項目・配点の見直し」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(優れた点)</p> <p>○ 教員評価における評価項目・配点の見直し 教員評価において、学術分野別の特徴に配慮した論文の業績の質を評価する項目の追加、科学研究費助成事業の研究種目を考慮した評価項目の改善に加え、新年俸制の導入や外部資金獲得増などの大学の経営課題を新たに盛り込むなど、評</p>		

	価項目・配点の見直しを実施し、第2期中期目標期間に比べて、外部資金額が増加しているほか、論文のFWCI (Field-Weighted Citation Impact) およびTOP10%論文率が向上し、世界水準に達している。(中期計画 2-2-3-1)
--	---

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
<p>知の拠点として地域の発展に寄与し、シンクタンクとして貢献する。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「中小企業への支援」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中小企業への支援 <p>北海道企業8社を含む鋳物関連中小企業の全国規模の広域ネットワーク「鋳物シンジケート」の構築を実施し、これら関連団体の新たな市場拡大に資する取組を進めている。この取組は、国内各地域における、新事業・新産業創出を目的とする、地域の特性に応じた優れた企業支援の取組評価、普及の表彰制度「第8回地域産業支援プログラム表彰事業(イノベーションネットアワード2019)」において、最も優秀な取組として文部科学大臣賞を受賞している。(中期計画3-1-1-3)</p> ○ 研究費獲得額の増加 <p>地域からの共同・受託研究等研究費獲得額は、第2期中期目標期間の平均22,607千円に対して、第3期中期目標期間は、34,494千円、52.6%増を達成している。(中期計画3-1-1-3)</p> 		

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 自治体の会議への参画 自治体の審議会委員等に専門家の立場から教職員が参画し、地域が抱える課題の解決に積極的に関与している。自治体等が主催する会議等への教職員参画数は、第2期中期目標期間の平均38件に対し、第3期中期目標期間中4年間で平均53.8件と41.6%増加している。(中期計画3-1-1-2)</p> <p>○ 寄附講座の設置 地域に根差した寄附講座を2件設置している。これらの寄附講座は、北海道が抱える課題解決に向けて地域企業等からの要望があり実現したものであり、地域を中心とした複数企業等による寄附により設置、維持されている。(中期計画3-1-1-3)</p> <p>○ 大学発ベンチャーの認定 酪農・畜産業に甚大な被害を及ぼす口蹄疫や鳥インフルエンザ、豚コレラなどの伝染病の予防徹底のため、研究グループの研究成果に基づき、産学官連携により、消毒効果が目に見え、従来品より飛散しにくく、かつ長持ちする多機能粒状消石灰の開発を行っている。この研究成果に基づき、北海道・宮崎県の畜産農家約800戸の協力を得て大規模実証試験を実施し、実用化の目途が付いたことから、研究成果を活用した製品の製造及び販売等を行う新会社が令和元年度に設立され、室蘭工業大学発ベンチャーとして認定している。(中期計画3-1-1-3)</p>
--	--

小項目 3-1-2	判定		判断理由		
<p>社会で通用する学生の教育について、正課及び課外活動等を通じて地域と協働して実施することで、地域に対する視点を養う。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域志向の人材育成の推進 北海道地域における地域志向人材育成プログラム修了認証制度を道内他大学・高等専門学校とともに創設し、趣旨に賛同する多くの企業による、インターンシップ支援や採用に係る推薦枠の提供、試験の一部免除、旅費支給、宿泊場所の提供などの道内就職優遇制度も創設に至っている。(中期計画 3-1-2-1)</p> <p>○ 地域企業へのインターンシップの推進 地域志向科目の実施による地域志向の醸成やインターンシップ担当教員からの啓発に加えて、道内就職優遇制度の創設による旅費や宿泊場所の提供等の仕組みを整備した結果、北海道内の地域企業等へのインターンシップ派遣数が第2期中期目標期間の平均である 84.3 名/年から、第3期中期目標期間は 109 名/年と、中期計画の 10%増を上回る 29.3%増加している。(中期計画 3-1-2-1)</p>		
小項目 3-1-3	判定		判断理由		
<p>次代を担う青少年の科学技術教育や社会人のニーズに即した再教育・生涯教育等、人材開発の場として貢献する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(優れた点)</p> <p>○ 社会教育講座の展開 小中高に対する理工系分野の啓発事業「サイエンススクール」を実施しているほか、広く一般に向けた公開講座、企業人へ向けた「最先端高度技術講座」、金融機関・自治体へ向けた「ものづくり目利き塾」を開催するなど、多様な講座を展開している。これらの講座の開催件数は、第2期中期目標期間の平均 113 件/年に対し、134 件/年と 18.6%増加して</p>		

	<p>いる。講習参加人数についても、第2期中期目標期間の平均3,261名／年に対して、4,782名／年と伸長している。(中期計画 3-1-3-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none">● 新型コロナウイルス感染症下における公開講座の工夫 新型コロナウイルス感染症の影響から、令和2年度に公開講座の開催回数が減少したものの、オンライン動画配信による講座や、自宅へのロボット工作キット送付などの工夫により、受講機会を大幅に減らすことなく遠方からの受講生の受入れも可能としている。(中期計画 3-1-3-1)
--	--

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
国際水準の教育研究を推進し、海外との留学生及び研究者・技術者等の国際交流を拡大する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫ （優れた点） ○ 国際交流の拡大 学年暦の検討、大学院博士前期課程における英語による講義のみで修了できるプログラムの創設、大学間ネットワークの構築、留学生宿舎等の環境整備など、様々な国際交流拡大の取組をすすめ、留学生の総数が令和元年度に過去最高となる210名に達している。（中期計画 4-1-1-1、4-1-1-3）		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.30 うち現況分析結果加算点 0.12	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.20	【3】
小項目1-1-1 学士課程では、専門知識や倫理観等を主体的に身につけ、課題解決にあたることのできる高度な技術者を育成する。	【4】	優れた実績を上げている 3.00	【4】
中期計画1-1-1-1 受動的学修から、能動的学修へと教育の重点を移すため、初年次から能動的学修を動機づける授業を配置し、高学年次まで能動的学修が繰り返されるように教育プログラムを設計・実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-2(★) 専門教育とそれを支える教養教育の関係が明確なカリキュラムへ再構築するために、すでに実施した学士課程自己評価の結果を基にした学部組織の再編を行う。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-2 社会から要請されている、産業界を支え国際的にも活躍できる有能な理工系人材を、学士課程と大学院博士課程を通じて系統的に育成する。	【3】	達成している 3.00	【3】
中期計画1-1-2-1(★)(◆) 学士課程の改組再編を行い、学士課程及び大学院博士課程を接続して一貫した人材育成が可能なカリキュラムを編成する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-3 大学院博士前期課程では、高い専門性に加えて、自身の専門領域を超えた分野の幅広い知識や俯瞰力を身につけ、それらを問題解決に活かすことのできる高度な科学技術者を育成する。	【3】	達成している 3.00	【3】
中期計画1-1-3-1 大学院博士前期課程教育においては、自己の専門性を深めるとともに、自己の専門以外の周辺分野も俯瞰できる素養を身につけるカリキュラムを編成する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-4 大学院博士後期課程では、産業界等でも広く活躍できる能力を身につけた「イノベーション博士人材」を育成する。	【3】	達成している 2.00	【3】
中期計画1-1-4-1 大学院博士後期課程教育においては、大学間及び産学間の教育研究ネットワークを量と質の両面で発展させ、インターンシップを含めて学外との交流事業に参加させるプログラムを新たに実施する。	【2】	実施している	【2】
小項目1-1-5 国際的に活躍できる能力を身につけた人材を育成する。	【3】	達成している 2.67	【3】
中期計画1-1-5-1 学士課程では、国際コミュニケーション能力を向上させるため、TOEICのスコア等を用いて学生の外国語学力段階を把握し、その結果を教育へフィードバックするシステムを確立する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-5-2 大学院博士前期課程では、国際的な技術理解や表現能力育成のため、プレゼンテーションやPBL(Problem Based Learning:問題解決型授業)の要素を含む関係授業科目の内容と実施体制を検討し、その結果を教育へフィードバックするシステムを確立する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】

室蘭工業大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-1-5-3 大学院博士後期課程では、グローバルに活躍できる人材を育成するために、国内外の企業・大学等と協働した実学的なプログラムを実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】	
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-2-1 学士課程及び大学院博士課程の各コースカリキュラムに係わる教育スタッフを確保するとともに、コース学生数について弾力的に運用する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-1-1 学士課程及び大学院博士課程のカリキュラムを実効的に実施するために、授業担当教員等の教育スタッフを、教育負担が平準化するようにカリキュラム内容等の実績に対応して配置する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-2 学士課程及び大学院博士課程の各コースについて、経営評価指標各種アンケート結果等を通じて得た社会の多様な要求を満たすように、学生数を配置する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-2-2 他大学との連携を図り、教育の多様化と高度化を進める。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画1-2-2-1 学士課程においては、北海道地区の国立大学との双方向遠隔授業システムを用いた教養教育連携を推進し、受講者数等を拡大する。また、道内大学・高等専門学校と地域活性化に向けた講義を遠隔授業システムにより展開する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-2-2 大学院博士前期課程においては、相互にカリキュラムの補完と高度化を図るため、他大学・産業界との連携教育プログラムを実施する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-2-3 学生が能動的に学修し易い環境を整備するとともに、学生の自己学修管理能力を育成する。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画1-2-3-1 多くの授業に、学生の能動的取組を明示的に取り込むために、アクティブラーニングを推進する全学的な組織の下に必要な仕組み・設備を明らかにし、導入する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-3-2 学生が自身の学修達成状況を容易に把握できるようにするとともに、自己学習を着実に進めるため、電子ポートフォリオなどICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) を利用した学習支援システムを拡充・整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-2-4 国際通用性のある技術者・人材を育成するために、教育の質保証を行うとともに、継続的にその質改善を図る体制を整備する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画1-2-4-1 学士課程においては、教育の質保証の観点から、JABEE(日本技術者認定機構)プログラムに代表される各分野の国際的技術者教育の水準を満たすための教育プログラムを引き続き整備・維持する。	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-2-4-2 教育内容・条件の改善のために、各学科・コースにおける事例を収集し、全学的に共有して継続的なFD(Faculty Development:教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称)活動等に利用するとともに、各種教育アンケート結果等を速やかに検討・反映させる仕組みを整備する。また、講演会以外の企画も実施することでFD活動への参加数を全専任教員の8割以上まで増加させる。	【2】	実施している	【2】	
中期計画1-2-4-3 カリキュラム等に産業界の声を反映させるために、大学院博士後期課程に設置している「アドバイザーボード」の活動を学士課程及び大学院博士課程全体へと発展させる。	【3】	優れた実績を上げている	【3】	
中項目1-3 学生への支援に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.50	【4】
小項目1-3-1 学修に関する環境や指導体制を充実させ、学生の能動的な時間外学習を支援するとともに、全学的な就職支援体制を整備・維持する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67	【4】
中期計画1-3-1-1 学科コースごとに電子ポートフォリオ等により各学生の学修状況を把握するとともに、1年次～3年次学生へは年2回以上チューター教員が面談するなどの学修指導を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-3-1-2 学生が個人やグループで自主的な学習に利用できるスペースを、現状の1.25倍程度まで整備・充実する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-3 「キャリア・サポート・センター」と学科・専攻の活動状況の情報を常に一元化する仕組みをつくり、連携した取組を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-3-2 学生の生活環境を改善するために、生活に関する相談・支援体制を充実させる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-2-1 修学を継続できるような全学的な支援体制を整え、自身の障がいや経済的理由等により修学困難な学生への支援策を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-2-2 講習会等を実施して各学科チューター教員や各種相談室員をはじめとする教職員のスキルアップと意識改善を図るとともに、カウンセリング体制を強化することで学生のメンタルヘルスケアを進める。	【2】	実施している		【2】
中項目1-4 入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-1 学士課程では、科学技術に夢を抱き、世界舞台を目指す、学習に意欲をもった多様な学生を受け入れる。	【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画1-4-1-1 課題解決能力、主体性・倫理観等を育む学士課程での修学に必要な基礎学力・教養と、修学の基盤となる思考力・主体性・表現力を有する学生を受け入れるために、アドミッションポリシーを再策定するとともに、入学者選抜方法改善につながる情報・データを絶えず収集し分析する。これにより、学力の三要素を多面的・総合的に評価するアドミッションオフィス入試をはじめとする新しい入学者選抜方法を、平成31年度までに構築する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

室蘭工業大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-4-2 大学院博士前期課程では、課題解決のための基礎的素養を備えた学生を受け入れる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-2-1 大学院博士前期課程での修学に必要な素養を見極め、大学院への進学を促進するために、在学生の修学状況の分析等を通して絶えず入学者選抜方法について検討し、改善する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-2-2 学士課程及び大学院博士課程を通じた一貫人材育成カリキュラムに対応する入学者選抜システムについて、その時期や選抜基準を検討し、設定する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-4-3 大学院博士後期課程では、工学の先進的課題の発見とその解決に強い意欲を備えた学生を受け入れる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-3-1 課題の発見とその解決のために必要な幅広い知識とアプローチの柔軟性を見極めるために、在学生の修学状況の分析等を通して絶えず入学者選抜方法について検討し、改善する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-3-2 ロールモデルを提示するなどして、大学院博士前期課程学生が後期課程へ進学しやすい環境を整備する。	【2】	実施している		【2】
大項目2 研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.91 うち現況分析結果加算点 0.25	【4】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-1-1 ものづくりとしての高度で先端的な加工技術に関わる重点分野の独創的・先進的研究を設定し戦略的に推進するとともに、新しい重点分野の創出・育成を進める。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 国際水準の成果を達成するために、航空宇宙機システム及び環境・エネルギー材料を重点研究分野に設定し、この分野に係る教員一人当たりの論文数及び論文引用数、分野に係る獲得外部資金について前中期目標期間の平均に比べて20%以上増加させるとともに、関連の外国人研究者を招へいして共同研究を推進し研究拠点を形成する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-2(★) 競争的な研究環境を用意して新たな重点分野研究を見出し、これを育成する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目2-1-2 教員組織である「研究ユニット」で行う基盤研究を業績評価によって支援するとともに、学内公募によって将来性が見込める特長的なプロジェクト研究に対してもその計画・実績に応じて支援する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画2-1-2-1 研究計画と構成員の研究業績の評価によって各ユニットを支援し、その成果の評価結果を次年度に配分する研究費に反映させるサイクルにより基盤研究を推進する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-2-2 基盤研究の枠組みを越えて個人又はグループが提案する学内公募研究の中から、将来性及び特長性の観点から採択したプロジェクト研究を支援する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
小項目2-1-3 学術研究成果の論文発表、研究成果に基づく外部資金の獲得及び特許等の取得を積極的に進め、それらの研究水準及び成果を評価・検証して、質の高い研究を推進し、それらを公表する。	【4】 優れた実績を上げている	2.67	【3】
中期計画2-1-3-1 論文発表、獲得外部資金、取得特許等の研究業績を把握する教員評価法を常に改善し、研究業績を公表する。	【3】 優れた実績を上げている		【2】
中期計画2-1-3-2 論文及び科学研究費助成事業等の研究業績に関する評価基準を明示し、教員の研究力と研究の質を高める。	【3】 優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-3-3 教員データベースとリポジトリとの接続性を高めて、研究成果コンテンツの公開を進める。	【2】 実施している		【2】
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している	3.33	【3】
小項目2-2-1 強み、特長を踏まえた研究活動を推進するために弾力的な人材配置を行うとともに、研究資源を機動的に有効活用できる仕組みを強化して研究推進体制を充実させる。	【3】 達成している	2.67	【3】
中期計画2-2-1-1(◆) 研究に関する企画戦略計画に基づいて、研究ユニット、センター等へ重点配置率30%の範囲で研究者を配置し、重点分野・基盤研究を推進する。	【3】 優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-2-1-2(◆) 若手研究者数の拡大及び研究ユニット内における競争原理による優秀教員育成を進めるとともに、40歳未満の教員数割合を25%に高め、研究活動を活性化する。	【2】 実施している		【2】
中期計画2-2-1-3 研究スペースの一元的な管理を継続し、研究環境の計画的な改修を進めるとともに、研究施設・設備に関するマスタープランを毎年度見直し、計画的整備を行う。	【3】 優れた実績を上げている		【3】
小項目2-2-2 国内外の共同研究、受託研究等を一層推進するため、研究支援体制を強化する。	【3】 達成している	2.33	【3】
中期計画2-2-2-1(★)(◆) 産官学連携により高度な研究を推進するため、学内組織の再編等により研究の戦略的企画立案を行う体制を「社会連携統括本部」の機能を発展させ、平成29年度までに再構築する。	【3】 優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-2-2-2 知的財産を含む学内の研究情報を集中管理し、常にこれを更新する。	【2】 実施している		【2】
中期計画2-2-2-3(※) 若手研究者の海外派遣件数及び海外研究者の受入件数を前中期目標期間の平均に比べて20%以上増加させ、海外研究機関等との交流を活性化させる。	【2】 実施している		【2】
小項目2-2-3 研究活動の評価システムを充実し、研究の質を向上させる。	【4】 優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画2-2-3-1 信頼性の高いデータベースからのデータ自動取得機能を独自開発システムに加えて、教員評価の仕組みを充実させる。	【3】 優れた実績を上げている		【3】

室蘭工業大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
中期計画2-2-3-2 研究に関する外部評価を実施し、評価結果を研究の活性化と質の向上に反映させる。	【2】	実施している	【2】
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	達成している	【3】
	なし	—	なし
小項目3-1-1 知の拠点として地域の発展に寄与し、シンクタンクとして貢献する。	【4】	優れた実績を上げている	【4】
中期計画3-1-1-1 教員の研究シーズデータを更新し、オンライン化するなど地域の産業界ニーズに即応して提供できる仕組みを常に改善する。	【2】	実施している	【2】
中期計画3-1-1-2 人口減少や、産業振興・雇用創出、若い世代を中心とした定住促進等、地域が抱える課題の解決に積極的に関与するため、自治体等が主催する会議等へ本学教職員の参画数を前中期目標期間の平均に比べて10%以上増加させる。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画3-1-1-3(◆) 地域の特性や資源を利用した研究を行って地域産業の創出につなげるため、地域企業との共同・受託研究獲得額を前中期目標期間の平均に比べて10%以上増加させる。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目3-1-2 社会で通用する学生の教育について、正課及び課外活動等を通じて地域と協働して実施することで、地域に対する視点を養う。	【3】	達成している	【3】
中期計画3-1-2-1(★)(◆) 学部授業に地域特性を学ぶ科目や地域インターンシップ科目等を開設し、地域企業へのインターンシップ派遣数を前中期目標期間の平均に比べて10%以上増加させるなどして、学生の地域志向を高めるとともに、学部卒業者の地域就職率を平成26年度に比べて10%以上増やす。	【2】	実施している	【2】
中期計画3-1-2-2 近隣地域での就業体験や、学生ボランティア活動を推進するため、ボランティア活動等の情報を一元化し、マッチングや周知を行えるようボランティア活動等に係る全学的な支援体制を構築する。	【2】	実施している	【2】
小項目3-1-3 次代を担う青少年の科学技術教育や社会人のニーズに即した再教育・生涯教育等、人材開発の場として貢献する。	【3】	達成している	【3】
中期計画3-1-3-1 小中高生に対する理工系分野の啓発活動事業や、社会人の学びに配慮した地域に開かれた公開講座・講習等の開催件数を前中期目標期間の平均に比べて10%以上増加させる。また、地元をはじめとする企業の研究員等を受入れ、社会人の大学院博士後期課程での修学を、経済的な面や研究指導時間設定の融通性からも積極的に支援する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 国際水準の教育研究を推進し、海外との留学生及び研究者・技術者等の国際交流を拡大する。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画4-1-1-1 留学生・研究者の海外からの受け入れと海外への派遣を拡大するために、学年暦検討や大学間ネットワークの構築等の環境づくりを進める。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画4-1-1-2 大学院博士前期課程において、複数学位制度を視野に入れたプログラムを検討、実施するために英語コースを複数の専攻コースで創設し、学部においても英語による講義を5科目以上開講する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-3 留学生受入5%(150人)を達成するような留学生宿舍等の環境整備を行う。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画4-1-1-4(*) 留学派遣2%(60人)を達成するような派遣留学及び海外研修、語学研修等の短期派遣支援制度の整備を行う。	【2】	実施している		【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。